

青井記念館美術館

# はぐくみ会だより

第 23 号

平成19年4月1日



所蔵作品紹介

(22)

「ライオン」

竹田松洋作

# 第十三回青井中美展

11月22日(水)～12月7日(木)

第十三回青井中美展は昨年十一月二十二日(水)に、来賓、審査員、関係中学校など多数出席のなか表彰式及び開展式が盛大に挙行されました。連日多くの父兄や親戚の方々、学校関係者で賑わいました。参加校五十七校、応募作品七百四十六点、入選三百一十一点、入選率41、7%でした。十二月七日(木)まで開催されました。

## 各賞受賞者

青井大賞	中仙道史恵 (城端)
富山県知事賞	吉田勝年 (福野)
富山県教育委員会教育長賞	井野涼 (福野)
最優秀賞	犀川友絵 (出町)
優秀賞	草本麗奈 (高陵)
富山新聞社優秀賞	草嶋大貴 (射北)
チューリップテレビ優秀賞	上野成徳 (高陵)
優良賞	早川由希子 (高岡西部)
優良賞	中村莉乃 (庄西)
富山新聞社優良賞	松澤綾乃 (永見北部)
富山新聞社優良賞	澤村寿美太 (国吉)
チューリップテレビ優良賞	高嶋美咲 (庄西)
佳作	坂口亜矢 (八尾)
佳作	中西悠介 (鷹施)
佳作	土井ちえみ (朝日)
佳作	荒井奈摘 (城端)
佳作	荒田理吾 (石動)
佳作	坂本萌子 (八尾)
佳作	一ノ瀬萌子 (上尾)
佳作	沙魚川由佳 (志貴滝)
佳作	安宅彰洋 (福野)
佳作	向川春菜 (福野)
佳作	丸山緒里 (高岡養護)
特別賞	飯田裕之 (滑川)
特別賞	按田凜音 (滑川)

### ●青井大賞「足跡」

中仙道史恵さんの作品

少女の希望と不安、移ろいを重層的に描いている。交差する大小の足跡が、時間の流れを象徴しているようだ。



### ●富山県知事賞「四角の革命」

吉田勝年君の作品

現代社会との結びつきをサイエンスを凝縮し、量として捕らえ、時空を明快に表現した作品である。並はずれた感性



### 「足跡」を描いて

中仙道史恵

この「足跡」を描くときに一番心がけたのが気持ちを表現する、ということでした。私自身が感じた中学三年生での進路選択、受験、将来についてなど不安な気持ちを表そうと思いましたが、それを表すための構図や配色を考え、現実味を出したかったので友達にモデルになってもらったり、靴の裏を実際に観察したりしました。特に人物を上から見たところは友達の協力がなければ描くことができなかったと思います。この作品が完成したとき、描きたいものを全面に出せてとてもすっきりした気持ちになりました。そして中学三年生の悩みのつきないときにこの作品が描けて本当に良かったです。これからは気持ちや思いがまっすぐ伝わるような絵を描いていきたいです。

### ●富山県教育委員会教育長賞「練習風景」

井野涼君の作品

人物の姿が力強く、的確に描いている。描写力に優れ、絵の具の扱いに慣れている。



### ●最優秀賞「春を待つ」

犀川友絵さんの作品



筆のタッチによる画面の流れの表現、あか抜けた色彩が良く、作者の意気込みが感じられる。

## 同窓生ギャラリー

1月21日(日)～2月18日(日)

### 「絵とやきもの二人展」

故昇外義氏と塚本武彦氏の二人展が開催されました。昇外義氏は、加藤雨月先生の指導を受け、卒業後は京都絵画専門学校へ進み、生涯写生一筋、孤高の仙人のような日本画家として神戸で活躍されました。作品の特色のひとつが優れた線描にあります。



塚本武彦氏は窯業科時代、山本興山、池上栄一、中本八郎諸先生方の指導を受けられ、自我の境地を開きつつ、未知の世界を求めて作陶に励んでおられます。



三月十三日～四月一日は、「江尻治泰日本画展」が開催されました。「大地」の大作や植物を描いた小品等三十点が展示されました。青井記念館美術館同窓生ギャラリーは、同窓生の再会キャンパスなのかも知れません。大勢の同窓生の来館をいただき皆さんに心から感謝いたします。



## 作品の裏に

### 卒業課題展

2月24日(土)～3月2日(金)

学校長 林 恵 彰

「課題研究」の授業を中心に放課後も主体的に活動して、ほぼ一年がかりで取り組んできた素晴らしい作品が数多く展示してあります。以前に授業や実習で習った技術を用いて、思い通りに出来上がったときの感動を味わっていましたが、まだまだ未熟な作品の裏にも、それが完成するまでに失敗を繰り返し、悩み、それでも諦めることなくねばり強く努力した跡があります。生徒のこのような努力の姿を見ていると、諸先輩方から脈々と受け継がれてきた「尚美」の精神をあらためて崇高なものと感じます。

## 大きな足跡を残して

### 尚美展一〇〇回を迎える

青井記念館美術館はぐくみ会  
会長 玉井 晶 夫

本校の最も大きな行事のひとつである尚美展が、今年で記念すべき一〇〇回目を迎えます。

第一回の尚美展は、明治四十三年に開催されました。開町よりの伝統を受け継ぐものづくりのまち、優れたデザイン・工芸を世界に発信していた高岡市民にとつて、この工芸展覧会は、大きな期待と夢を寄せるものであり、当時高岡市の人口は約三万人でしたが、来場者が七千人を超えたという記録が残っています。高岡の将来を担う可能性あふれる生徒たちへの、市民の関心の高さが何われる数字です。以来「高岡工芸」といえば「尚美展」と言われるほど、ひとつの代名詞になったとことです。

第五十回尚美展では五万人の来場者が訪れるほどになり、益々盛大に開催されたと聞いております。

建学の精神である「より高く求めてやまない美の追究」は、これまで多くの偉大な先輩方を輩出し、輝かしい歴史を刻んできました。その先輩方の輝きのもと、この学舎（まなびや）で学んだ成果を発表する機会である尚美展は、若き種である生徒たちに力と自信を与えてきました。また、その後青井記念館美術館を誕生させる大きな原動力となりました。

本年の尚美展一〇〇回記念展は、その歴史を顕彰するとともに、先輩方を讃え、これまで尚美展開催に尽力された多くの方々に感謝し、一〇〇回記念とともに喜び、祝う機会にしたいと考えております。

## 寄贈作品の紹介

「クレインのある風景」

頭川 徹作

頭川 徹氏

(昭和三十年図絵科卒)  
(高岡市在住)より寄贈



「乾漆盛器紅梅」

後藤 義雄作

(昭和十八年漆芸科卒)  
後藤義雄氏(高岡市在住)  
より寄贈



「アトリエにて」

十二町仁三作

(昭和十八年図案科卒)  
十二町多鶴子氏  
(高岡市在住)より寄贈



常設展Ⅲ期

12月19日(火)～2月18日(日)

「色と形のハーモニー」展

青井記念館美術館所蔵品から絵画十七点、彫刻十点、工芸十五点を展示しました。なかでも今年度の寄贈作品を主に米田昭作「鑄銅六稜水玉象嵌花器」、高尾宗嗣作「石橋の図」、船山龍雄作「蹴鞠像」、代谷松男作「浮カブ船」他二点、大島五雲作「欄間 鶴の図」、岩城大介作「秋」等で会場を飾りました。



常設展Ⅳ期

3月13日(火)～4月1日(日)

「尚美のシンフォニー」展

「より高きを求めてやまない尚美の精神」をテーマとして、絵画、彫塑・工芸の代表所蔵品を展示しました。佐々木大樹作「誕生仏」、「燕の図」、納富介次郎作「山水の図」、「双鯛彫刻漆器盆」竹田貞郎作「青春時代」米林雄一作「微空間ⅠⅢ」鶴谷登作「作品89Ⅰ」等五十余点が展示され、青井記念館美術館ファンの来館者がゆっくと鑑賞されています。常設展に大勢のご来館を頂きお礼申し上げます。



所蔵作品紹介 (22)

表紙

「ライオン」

竹田与作 作(号松洋)

作品は楕円で寸法は29cm、経は20cm、青銅で表現されています。浮き彫り(レリーフ)作品です。工芸学校を卒業(大正五年)後、金沢の相川松鴻(木彫家)に師事後、東京美術学校彫刻科木彫部に入学し高村光雲に師事しました。東京美術学校時代に動物園のライオンが珍しく、上野公園へ粘土を持ち運び制作されたそうです。

催事案内

高岡市民美術展・招待作品の展示

4月20日(金)～5月6日(日)

常設展Ⅰ期

5月16日(水)～7月26日(木)

同窓生ギャラリー

第44回 5月30日(水)～6月24日(日)

文化部合同展

7月8日(日)～7月26日(木)

常設展Ⅱ期

8月3日(金)～9月2日(日)

特別企画展

9月8日(月)～10月28日(日)

同窓生ギャラリー

第45回 8月3日(金)～9月2日(日)

はぐくみ会会員募集のお知らせ

はぐくみ会では会員を募集しています。申し込みは日から一年間会員となります。主な活動

- 1 青井記念館美術館への協力・支援
- 2 中学生美術展(青井中美展)への支援

特典

- 1 企画展等の案内
- 2 はぐくみ会だよりの配布

年会費

一般会員(個人) 一、〇〇〇円  
特別会員(企業、団体等) 一〇、〇〇〇円

お問い合わせ・申し込み先

青井記念館美術館はぐくみ会事務局

編集後記

今年度の同窓生ギャラリーの二人展、故界外義氏(S17、図案科卒)塚本武彦氏(S32窯業科卒)作品展開催では、神戸より多くの来館者で賑わい、期間中は鑑賞や学生時代の話を活発にされていました。

尚、青井記念館美術館運営委員や中美展作品の審査に御尽力頂いた鶴谷登氏が一月七日に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

平成18年度で竹田館長、丸山が退職する事になり、いろいろありがとうございました。次の新しい人に活躍を期待します。

尚美のハーモニーを受け継いで欲しいと願っています。(竹田記)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

住所 〒933-8518 高岡市中川一-120

TEL (0766)21-1630

FAX (0766)21-1631